

長野ろう・長野養護三輪校舎研究会報告

5月14日(木)第4回長野ろう学校・長野養護学校三輪校舎研究会が本校図書館で行われました。参加者は、特別支援課5名、長養職員5名・保護者2名、長ろう職員8名・保護者8名でした。次のような資料が特別支援課から提示され、それについて話し合いをしました。

【三輪学園について】

前回「4月中には返答をするという」説明でありましたが、結論は出ていないとのこと。課からは「三輪学園が、この地に残っても残らなくても連携はしていくし、違いはない。」と、言われましたが、三輪学園30人、長野養護30人で、この狭い敷地でどのように生活していくのか、三輪学園が残らないなら、養護のニーズもなくなる。三輪学園のあるなしによって大きな違いが出てくると思われまます。また、「三輪学園が30人なら、小学部の人数を減らしたりと言う変更もあり得るのか。」との質問に、「変更はない」との返答でした。



【資料に関して】

- ・「ろう学校には母子教室というものがある。それが分かるように。」 「示し方は検討します。」
- ・「総合支援センターは、幼児対象だけなのか？」 「中身はこれから検討します。」
- ・「現在、長野養護の本校には小学部児童が43名。そこから30人は動かさない。三輪校舎にはどういう子を入れるのか。」
- ・「課題の『知的障害のある子どものうち、認知、言語・コミュニケーションの力をつける必要のある子どもたち』と書かれているが、必要のない子どもたちなどいない。書きかえを」等の質疑、応答と意見が出ました。

【それ以外の意見】

- ・「4回目なのに何も内容が進んでいないように感じる」
- ・「三輪校舎の人数を30人と決めたので、その数は絶対に超えないように」
- ・「とにかく危険な建物なので早く改築してほしい。」
- ・「昨年度課と交わした約束は課長が変わっても守ってほしい。」(これについては、「これから検討すると答えたものもある」との返事でした。)
- ・「長野養護としても、ろう学校の改築は最優先と考えてきた。しかし、建物を分けるとかそういうことは全く聞いていない。どのような建物が良いのかどういう教室が良いのかは、これから検討していくべき」
- ・併設について(共有部分は検討するが、校舎は分ける。教員は別組織。)については、課ははっきりと「それは決定です。」とっていました。

「報道で『苦渋の選択』と書かれ長養の保護者は悲しい思いをしてきた。」と長野養護の発言がありました。

「ろう学校保護者も悲しい思いをしている。何十年も前から改築を要望し、単独で建てたかったができなくなった。建物や組織は、別にすると決まっているので、県からしっかり説明してほしい。」

「ろう学校も嫌だと言っているわけではなく、とにかくろう教育を守りたいと言う気持ち。一緒に良い学校は作りたい。」

「どの障害が良いとか悪いとかではなく、それぞれの専門性を保持し、それぞれにあった教育をしたい。交流したり、互いに有効利用し合うことは今後検討したい。」

「長ろう対長養ではない。新しく魅力のある学校を作りたい。」

「どんな子ども達が来るのかイメージがみんな違う。1学年5人もどうやって選ぶのか。」

「もう少しこの会を続けて、誤解が解け、お互いがこの学校なら良いだろうという所まで話をしたい。」

等の意見もありました。また、研究会終了後も保護者同士で語り合う姿が見られました。それぞれの立場で意見を出し合いながら、それぞれにとって良い学校を作っていきたいと締めくくられました。

【今後の予定】

今後は、6月の補正予算が通れば、地質調査をし、基本設計6ヶ月、実施設計6ヶ月、工事2年ほどの計画で進めるそうです。設計の資料は10月までには作りたいそうです。

6月13日(土)の学校公開日には、課からの説明の時間もとれそうなので、ぜひご参加下さい。

5月19日(火)に、松本養護学校の分室がある「信濃学園」に、学校・PTAの改築委員数名で見学に行ってきます。ここに通う子どもたちが県が考える三輪校舎に通う子どもたちのイメージだそうです。